



著者プロフィール

山本洋子（やまもと・ようこ）

昭和9年9月18日生

桂信子・大峯あきらに師事

同人誌「晨」編集長

俳人協会評議員 日本文芸家協会会員

句集『當麻』『木の花』『渚にて』『稲の花』『桜』など。

〈句集『夏木』より転載〉〈2011年7月20日時点〉

『夏木』

（自選15句）

山本 洋子

敦賀よりの北に用ある時雨かな
銀杏散るところで母が待つてをり
うら若き掌にのせてきし霊鬼
室生寺へ行くかと問はれ春の風
外海といふ大いなる春の間
正月の人に寄りくる鷗かな
いくすぢも鳥羽に立ちたる稲光
刈萱や池にうつりて女来る
宇陀に入るはじめの橋のねぶの花
狐火や土蔵にかます櫻石
満月はのぼり唇は果てにけり
二三人藪抜けてゆく踊りかな
蛇彫の座敷柱や葉陰
雛飾る四五冊の本片寄せて
鶏鳴の二度ほどあがる春の山